

2 管内の状況及び学力向上策

■空知管内の状況及び学力向上策（小学校数：56校、児童数：1537人）（中学校数：37校、生徒数：1649人）

【教科全体の状況】

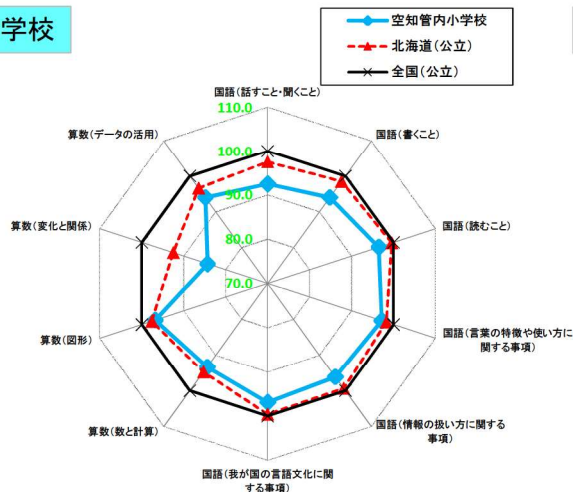
【レーダーチャート】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況
 （「管内の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100」で算出）

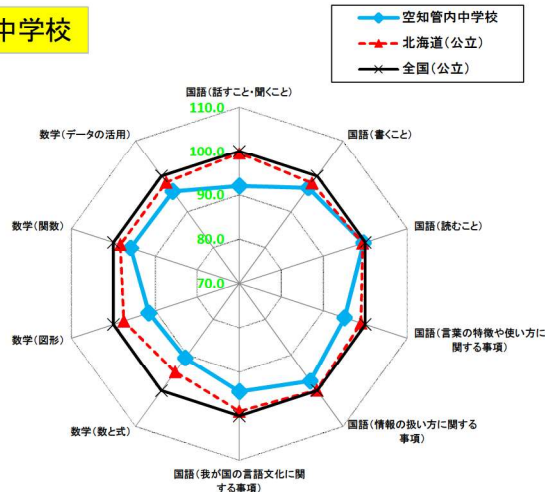
【管内の平均正答率】

	小学校国語	小学校算数	中学校国語	中学校数学
空知管内	65[64.7]	59[59.1]	56[55.7]	49[49.3]
全国	68[67.7]	63[63.4]	58[58.1]	53[52.5]

小学校

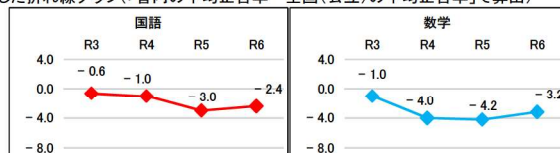
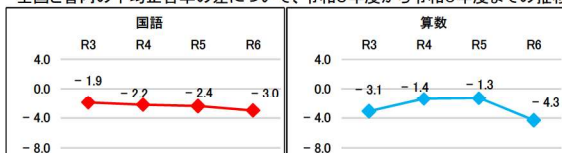


中学校



【平均正答率の推移】

全国と管内の平均正答率の差について、令和3年度から令和6年度までの推移を示した折れ線グラフ（「管内の平均正答率－全国（公立）の平均正答率」で算出）

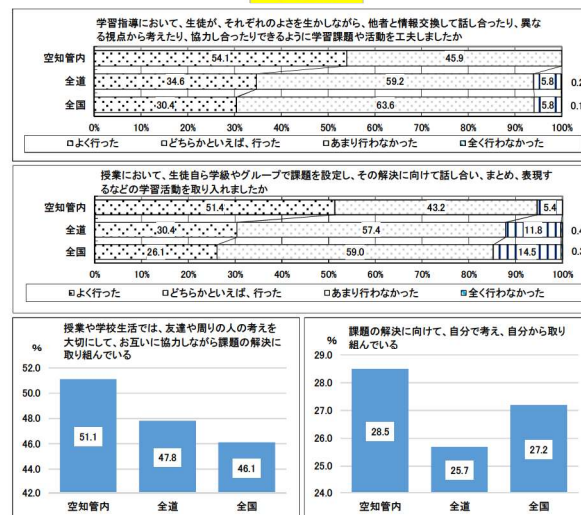


【質問調査の状況】

小学校



中学校



〔上記結果の考えられる要因の分析〕

小学校

多くの学校で、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行ったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、算数の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行ったことにより、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの学校で、学習指導において、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

多くの学校で、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【空知管内の学力向上策】

1. 管内教育の重点（学力）

○ 新しい時代に必要な資質・能力の育成

- ・学校管理職・教員の授業観の転換を図るため、中教審答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して」の背景や実現すべき学校教育の共有・学校のクリティカル・シンキング（批判的思考）の喚起のため、全国調査等の客観的なデータに基づき、自校の課題に向き合う学校管理職・教員の育成
- ・ICTの日常的な活用を標準化するため、協働学習での同時編集機能の活用及び端末を使った調べ学習、メモ入力等の充実

2. 具体的な改善策

○ 全学校・全管理職へのアプローチ

- ・EBE協議会において、全国調査に基づく授業観・自校課題の協議、エビデンスの活用、改善マネジメントの協議を行い、授業観の転換を図る。
- ・学校教育指導において、義務教育指導監による学校経営指導と連携を図った連続性を重視した指導助言を行う。

○ 市町・教員への個別のアプローチ

- ・「空知でVIEW（空知教育局独自オンライン学習会）」において、経験・職位別に授業観に係る協議及びICT利活用に係る先進事例の共有、実践演習などを行い、授業観の転換を図る。
- ・遠隔授業の試行・検証を行い、ICT先進校と周辺校をつなぎ、日常活用を促進する。
- ・圏域連携を行い、市町の枠を超えた巡回指導、合同研修を実施する。
- ・ICT利活用管内協議会を実施し、リーディングDX指定校の実践・成果の情報発信を行う。
- ・市町教育委員会学力担当者会議を実施し、要支援校の共有、教育委員会の指導性の向上を図る。

3. 具体的な取組計画

